



<豊かな実り、おいしいカレー>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	歴史同好会活動だより	8
Monthly Repo ならやま	2	クビアカツヤカミキリとは	9
里山の今 (パト・景観)	3	組織体制変更のお知らせ	10
里山の今 (虫だより・花だより)	4	Galleryならやま	11
自然観察会・レポ	5	行事案内・仲間入りしました	12
春の感謝祭・レポ	6	幹事会報告・編集後記	13
私の恩師の話を聞いて下さい	7		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

コロナ禍は第7波が到来。ワクチン効果もあるのか重症化リスクは大きくないようでもあり、対策をとりながらの社会活動は制約されていないが、熱中症とあわせて医療の逼迫が懸念される。私たちの活動もこれまで通りの対策を取りつつ継続していくこととしているが、活動への参加にあたっては、体調が万全であるのは当然のこと、自分を取り巻く環境を十分に認識したうえで、無理のない参加をお願いしたい。

また、最近、活動中にケガをされる方が増えている。小さな事故の先には大きな事故が潜んでいることを思い起こさなければならない。特に、チェーンソーや草刈機などの動力機器の使用は要注意である。長年の慣れへの油断、高齢化による敏捷性の低下は念頭に置いておかなければならない。

夏休みに入り、ならやまでのイベントも続く中、安全には十分気をつけて、楽しいものにしたい。

桜、桃、ウメなどに大きな被害をもたらす特定外来生物クビアカツヤカミキリが身近に見つかっている。ならやまでもまずは早期発見が第一とのことで総点検を実施することになった。

生き物の最盛期にあり、雑草の繁茂も著しく、景観整備がなかなか追いつかない。どのグループも体力的にいちばん厳しい時期、無理をしないで、でも、力を合わせて、乗り切りたい。

8月の活動特記事項

協働活動：8月4日(木) アダプトプログラム

8月11日(木)：夏休みで活動休止

夏だ！休みだ！里山で遊ぼう②：8月27日(土)(降雨確率50%以上9月3日(土)に順延)
クビアカツヤカミキリ侵入有無の総点検

8月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、薪割り、下草刈り、イベント準備 ユート：アカマツの森でのマツの間伐
エコファーム	水田整備、ジャガイモ畑整備、トマト整枝、唐辛子畑除草、里芋・さつま芋手入れ、西瓜・南瓜跡地整備、冬野菜畑準備
景観	整備：彩の森・BC周辺、佐保自然の森の草刈り、養蜂巣箱の整備 ビオ：西池改修、水路・木道整備、水生生物調査 花：紫陽花剪定、山野草園草取り
パトロール	1～3コースパトロール、観察路整備(階段、ロープ他)、笹草刈り、イベント準備
果樹	実りの森除草、ブルーベリー収穫、ウメ・グミの剪定、防草シート施工

活動日：毎週木曜日 8:30～12:45(7月7日から当面の間、暑さ対策として)

前日水曜日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日でも同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

6月23日(木) 晴 70名

今日の気温が30度を超える見込みのため、終礼を12時30分とした。里山GはNo.3区画の常緑樹伐倒と整理、下草刈り、薪割りを行う。エコGはカボチャ畑の除草、黒豆の種播き、チップ作り、春の感謝祭用のジャガイモの収穫を行う。景観Gは佐保自然の森竹林伐採、観察路の草刈りなど。花班はアジサイ園周辺の草刈りなどを行う。ビオ班は第1沈殿池の泥上げ、ビオエリアの草刈りなど。パトロールGは3コースのパトロール、景観Gの応援で観察路の草刈りを行う。果樹Gは梅の収穫と販売、実りの森の除草などを行う。

**6月30日 晴 75名+2名**

シニア自然大学校実習生1名と藤原さんの紹介で1名が参加。エコグループ主催で春の感謝祭が開催され、おいしいカレーに舌鼓を打った。今日も気温が高く、12時50分に終礼をする。里山GはNo.3区画の常緑樹伐倒と整備、観察路の笹刈り、薪材の運搬など。景観GはBC、第2駐車場周辺草刈り、花班はモミジアオイ、アジサイ園周辺の草取り、ビオ班は水生生物調査、西池の草刈り、緑陰広場横水路の補修、掃除を行う。パトロールGは自然観察路、エントランス広場の草刈り、1コースのパトロールを行う。果樹Gは梅の収穫と販売、実りの森の除草。梅の盗難があった模様？

7月7日(木) 晴 65名

本日から当面の間、夏時間として8:30~12:45の活動となる。全員でアダプトプログラムを行う。昼過ぎに来週のイベントの打ち合わせを行う。里山GはNo.3区画の林内整備、観察路の笹刈り、イベント準備、薪割りを行う。エコGは水田では除草とヨシの敷設、米ぬかの散布。畑ではトマトなどの収穫、サツマイモ畑の除草を行う。景観Gはならやま大通り沿いの竹の伐採と整備、イベントの対応で真竹林整備、花班はモミジアオイ周辺の草取りなど。パトロールGはエントランス広場の花壇植込み、観察路草刈り、新入会員向け希少植物観察会を行う。果樹Gは実りの森の除草などを行う。

**7月14日(木) 曇り・小雨 42名**

朝からの雨模様で参加者は少なかった。16日のイベントの準備に取り組む。里山Gは伐倒木の集積・運搬・玉切などを行う。エコGは人参の種播き、周辺の草刈り。スイカなどがアライグマ? に食べられている。万願寺などの販売。景観Gはイベントの準備、学びの森の整備など。花班は、アジサイの剪定と草引き、ビオ班は西池水路の草刈りと泥上げ、東池の草刈りを行う。パトロールGは観察路と四季の森の草刈り、イベントの準備など。果樹Gは実りの森の除草、グループの打ち合わせなどを行う。

7月16日(土) イベントは23日に延期

前日の降水確率午前50%で「夏だ! 休みだ! 里山で遊ぼう①」は23日に延期。

第一生命財団から3名が来訪。実現した緑の環境プラン大賞「古都に広がる里山の彩り」を中心とする取材に対応した(会長他3名)。

パトロールグループ



景観グループ

◆ならやま愛♡増進中

高間 祥子

「奈良県からお預かりしている土地なので、この自然の姿を壊さないように、次の世代に残して行くことが私たちの役目です」。これは7月7日の植物観察会の時に、守口さんが話された言葉です。「ああ、そうだったか」ストンと胸に落ちました。

パトロールの仕事はほとんどが観察路の整備です。笹を刈り、階段の横木が腐食すれば取り替える。結構な重労働ですが、しばらくするとまた笹は繁り、木は腐る。整備できた時には多くの人に歩いてもらいたいのですが、現状ではかかり木や倒木の危険があり、自由に入ってもらうことはできません。「徒労」の二文字がよぎります。「他の人から自己満足と見られているのでは？」という思いもあったのです。

しかし、観察路が通れなければ、希少植物の保護もできません。以前は見られたのに消えてしまった花もありますが、消えそうになっても観察を続けていると、また出合える花もあります。皆さんに見ていただけなかったのが残念ですが、先日5年振りに、ある希少植物の花が咲きました。パトロール班では、観察会を定期的に行っていて、見頃の花を多くの会員に見てもらいたいと話しています。

イベントで、子供たちの笑顔やキラキラした眼差しを見るのは楽しみです。でもそれだけでなく、ならやまの自然に親しんでもらうのも、次世代へつなぐための大切なことだと改めて思いました。

植生の多様性があり、様々な生き物が息づき、面白いきのこもたくさん出る「ならやま」、人々が親しみ、恵みを受けることのできる、里山としての「ならやま」が、ますます好きになっているところなのです。

◆スパイダーモア 斜面刈りのコツ

澤田 好男

草丈の伸びが速いこの時期、自走式草刈りマシンの「スパイダーモア」が大活躍してくれます。

一般的には、肩に掛けて使う刈り払い機が、手軽なので多用されますが、これで刈ると、根元を切った草が倒れて残ってしまいます。

対して、スパイダーモアだと、背の高い草でも、細かいチップ状に粉碎してくれるので、刈り跡が比較的美しいのです。

さらに、スパイダーモアは斜面でも威力を発揮します。安全に早く美しく刈ることが出来ます。そのためのコツをご紹介します。

【スパイダーモア 斜面刈りのコツ】

- ① ハンドルを回転させて、本体よりも少し前方にセットする。
- ② 車輪を、斜面の横向きよりも、ほんの少し斜め上方向に向かせる。
- ③ 人は斜面の上から操作し、ハンドルを斜め上に引き上げるようにして移動する。



この写真のような体勢になります。ハンドルは、伸び縮みさせることができますので、長く伸ばすと、2m近く下まで刈ることができます。

文字や写真だけでは、イメージがつかめないうちも知れません。ご興味ありましたら、ならやま BC でお声掛けください。

虫だより



花だより

◆8月の昆虫

菊川 年明

山本 美智子

晩夏は直翅目(バッタ目)のシーズンです。各グループの代表選手3種をご紹介します。

◎トノサマバッタ

殿様の名にふさわしい風格のバッタです。アフリカなどでバッタが大発生して農作物が全滅することがありますが、そのバッタはトノサマバッタの近縁種で、トノサマバッタも大発生すると同様の事態になります。明治時代に北海道でトノサマバッタの大発生があり、バッタ退治には軍隊(屯田兵)まで出動したそうです。近年でも鹿児島県の馬毛島で大発生がありました。仮面ライダーの顔のモデルはトノサマバッタです。



◎キリギリス

草むらで「ギース・チョン」と鳴きます。従来キリギリスと呼ばれていた昆虫は近年になって2種の昆虫であることがわかり、ヒガシキリギリスとニシキリギリスになりました。大体ヒガシキリギリスは東日本に、ニシキリギリスは西日本に棲息し、奈良県では両種が混在しています。体形、斑紋、鳴き方が双方で微妙に異なっているのですが、判別は難しいです。名前は鳴き声に由来しています。



◎エンマコオロギ

草むらなどで「コロコロリー」と鳴きます。わが国では最も大きいコオロギです。良い声の「鳴く虫」なのに身近なところにたくさんいるためか、スズムシなどのように珍重されないのはかわいそうです。名前は顔が地獄の閻魔大王に似ているからとか。



◆ヤナギ

ヤナギの漢字には、「柳」と「楊」がある。「柳」は、枝の垂れたシダレヤナギを。「楊」は、枝の立ちあがったタチヤナギをあらわす。

ならやまには、西池にタチヤナギの仲間が保護され大きく成長しています。ネコヤナギやアカメヤナギの仲間です。

奈良市内でも佐保川や富雄川で、当たり前に見られたネコヤナギですが、コンクリートで固められた岸边によって今では消えてなくなりました。東大寺の湯屋の前の池畔にある立派なアカメヤナギは、5月頃、綿毛を持った種子が飛び散る「柳絮」で知られています。池面が柳絮で被われ、雪が降ったように真白になります。上高地の梓川上流の群生もタチヤナギの仲間です。ここの柳絮も有名です。

シダレヤナギは、庭園や街路樹として植えられ、ヤナギといえはこの木を思い浮かべる方も多いでしょう。春先の芽吹き的美しさや、夏の枝垂れの涼しさを身近に感じます。

柳川や倉敷の川下りの観光に一役買っているのもこの木です。同じように、猿沢池のシダレヤナギも立派に奈良の風物詩となっています。

日本人にとって、古来より文化面・生活面共に深い関わりのあるヤナギですが、現代の文明のもと、柳の木に幽霊も出ることもなく……。ヤナギ箸、ヤナギ刃、ヤナギ籠、ヤナギ行李。又、ヤナギ髪、ヤナギ腰、ヤナギ眉など。生活と共にあった用具も姿を消し、女性の美の例えの言葉も死語となりつつあります。

ヤナギ眉も柳眉となって逆立ってくると、ひと波乱。脛に疵もつ身ならば、「ヤナギに風」と受け流すか。「ヤナギに雪折れなし」とその場を耐えようか。一度は巧くいっても「ヤナギの下に何時も泥鰌がいるとは限らない」……。なーんて! こんな言葉はまだ通じますね。

6月自然教室だより

奈良公園南部、白豪寺周辺

山本 美智子

6月27日(月)9時30分、破石バス停に参加者15人が集合し、田代貢先生の案内で出発。

まず、先生特製の資料をいただく。観察会地図には道路、溝、人家の庭先、公園の池の中までぎっしりと観察予定植物が書き込まれている。先生がよく通る声は、通りの駐車場横に植えられている‘シラカバ’に注目。花穂を割り中身をルーペで観察。緑色と茶色の細かな粒を手を受ける。緑はめしべを包んでいた苞で葉の変形。茶色は果実(そう果)で薄いヒレが付いており風で飛びやすくなっている。道路際のフェンス越しの‘栗’は落ちていた果穂を観察、花の付き方、構造、果実の形を考えてみる。イガが葉の変形であるのを知る。



(シラカバの観察)

住宅の塀の上を見上げ、足元を指してシュロとドクダミ、ツユクサの葉だたみに注目。扇だたみ、内巻きだたみ等、葉が開く前の折りたたまれている様子を観察。食害から身を守る植物では、葉から白い液を出すナンキンハゼ、鋭い棘で備えるカラスザンショウやアメリカオニアザミを見る。‘ビーナスの姿見’と言われているヒナキキョウソウとキキョウソウを探しあて、種子の出る穴が上にあるのがヒナキキョウソウ、やや大きいキキョウソウは横にある。手にとってルーペでじっくり見る。

ヨウシュヤマゴボウ、ヘクソカズラ、シンジュの単軸分枝と仮軸分枝も学ぶ。

あまりの暑さに新薬師寺前で小休止。冷果の差し入れを有難く感謝して頂く。



(池の中のヒシの観察)

ザクロの観察時に花の色、形、味、大きさも鳥に見つけてもらい食べられるように進化したことを学ぶ。

動けない植物では、クサギの観察で、太陽光を受けるため葉の転回や長短を工夫している事も学習。東山緑地ではマテバシイ、ヒノキバヤドリギ、さらに池の中のヒシを観察。

最後の‘イ’の観察では、長く伸びた畳表に利用されている部分は花の軸。花から上の軸に見えるのは苞。葉は根元近くにあり目立たない。軸の中は白い芯が詰まっていた昔は燈心として活用され、故に別名‘燈心草’といわれた。



(お疲れ様でした)

‘自然が語りかけてくる声を注意深く聴き動けない植物の知恵を知り、観察活動を続けることで新たな発見がある’

次回は8月8日平城京跡で燕の埒入り観察です。

春の感謝祭レポ

心を合わせた感謝祭



エコ・グループ 吉村 さつき

しばらく中止になっていた感謝祭、今年は6月30日(木)に行う事が出来ました。メニューはカレーとサラダ。ジャガイモは鹿に芽を食べられ心配しましたが、何とか収穫する事が出来ました。コロナの事も考え野菜は各自持ち帰り家で綺麗に洗ってきました。

皆で野菜切りから、男性も上手く玉葱を切っています。「お家でも手伝うの?」「もちろんですよ」話も弾みます。

サラダ担当の方は前日にレタスの収穫、持ち帰って洗浄してきました。

かまどに5升釜を乗せてご飯を炊くのは藤原さん。初めての経験ですが、池田さんのご指導を仰ぎ「始めちよろちよろ中パッパ赤子泣いてもふたとるな」水加減も良く、白米も黒米との混合米もふっくらと炊きあがりました。



鍋はスパイシーカレーが小山さん担当。ワイン・ココナツミルク・リンゴなど沢山の調味料を使います。佐竹さんは学生時代のアルバイト経験を生かし、レギュラーカレー担当です。自然に補助の方も付いて美味しいカレーが出来上がりました。

台所ではサラダ作りが大忙しです。胡瓜に玉葱(白・赤)をスライス、レタス、大葉をちぎり水きり器で水分を飛ばします。特大ボールに4杯が準備できました。

配膳は白米・混合米・エスニックカレー・レギュラーカレー・福神漬・らっきょう・きゅうちゃん漬・サラダ・ドレッシング(青シソ・フレンチ)の2種を並べました。衛生面を考えそれぞれに給仕係が付きまして。皆様のご注文を聞き、多めご希望の方にはタップリと盛りせていただきました。



デザートは果樹グループの方の手作り梅ジャムを載せたクラッカー。

戸田さんからの提供で手作りの梅ジャムを使ったケーキ、皆さんにわたる様に綺麗にカットしてあります。心遣いが伝わります。

何と池田さんから大きなスイカ2個の差し入れです。とても美味しく初物と皆さん喜んでおられました。初物を食べると縁起が良く75日寿命が延びるそうです。

カレーもサラダも好評で皆さんからおほめの言葉をいただきました。お代りをする方もいて嬉しく思いました。お米7升、玉葱18キロ、ジャガイモ9キロ、チョット材料が多すぎました。参加者が80名程でしたので沢山残りましたが、その分お家にお土産で持って帰っていただき、ご家族の方にも喜んでいただけたのではと思っています。

感謝祭をするには当日だけの仕事ではありません。包丁を研ぎ、まな板を消毒、材料の買い出し、用具の準備も必要です。関わって下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです

熱中症注意報で活動は半日でしたが、どなたも体調を崩すことなく楽しい感謝祭になりました。

私の恩師の話を聞いて下さい

—断想・故狭川宗玄師の生と死—

八木 健彦

恩師・狭川宗玄師はこの3月に逝ってしまわれた。享年101歳、東大寺最年長の長老であった。桜の季節の雨の日に伺った本坊前の記帳所には、師の変わらぬ笑顔の写真が飾られていた。

師との再会は、5年半前、私が55年振りに奈良に戻り、毎朝大仏殿まで散歩をしていた歳末のある日、ふと狭川先生の住まいはこのあたりだったはずだと目の前の家を見ると、狭川の表札があり、二つ並んだチャイムの一つに宗玄と記してあった。気が付いた時には私はそのチャイムを押していた。門戸まで出てこられた先生といろいろ話したが、先生はかつて生死を分かちような大病をされたことがあって、それ以来一病息災で永らえているということだった。その時勧められた勸学院で担当されている木曜午前の講義には、1年間通うことになった。

先生は生まれた時から大変小さくて弱く、医者はよく生きて10歳くらいまでだろうと言ったそうだ。しかし10歳時に亡くなられたのはご母堂であった。母の死の報せを聞いた小学校4年生時の先生の様子を伺って、私には、きっとお母さんの命が(二月堂の観音さんの導きで)先生の中に移り、今も二つの命を生きておられ、それが長命の根拠だと思えた。

先生の人生最大の痛恨事は、1944年の修二会でお籠り中に先生等3人に赤紙が届き、修二会からの離脱を余儀なくされたことだろう。1200年の歴史の中で途中離脱は一度もなかったのに、伝統が途絶えたのだ。出征前夜二月堂を前に1人で聞いた声明は生涯耳に残り続けたとか。ここには廃仏毀釈・国家神道に始まる国家と戦争と宗教をめぐる問題がはらまれており、一度先生とは突っ込んだ話をしてみたかった。

先生は下士官として数人の部下を率いて、米軍上陸に備えて伊豆白浜に配置された。そこで

米軍機の機銃掃射に遭遇したという。パイロットの顔がはっきり見える間隔で、死を覚悟したそうだが、たまたま近くに小さな橋がありそこに隠れて一命を取り止めたという。生への息吹という点では、ずっと姿を隠していた沢山の漁船が8・15後に一斉に出漁した光景を話された。

そういう経験からか、中学校で教頭をされていた時の印象は凄く年上のように思えた。驚くほどの冷静さと落ち着きがあり、私達が休憩中に暴れて戸を外したままに席についていても、叱ることなく自分で戸をはめ直される姿は、今も頭に焼き付いている。それでも1年前に先生の家へ伺ったとき、別れ際に青々中学の3年間(各期の生徒側からみたら3年)こそは自分の青春であったとしみじみ言っておられた。

先生の最大の試練は、95歳の時にご伴侶に先立たれた時だと思える。全てを喪ったようで内にこもり、そのまま朽ちていくかのようになった。私には高僧として死生観を追求されてこられたはずなのになぜにと不思議に思えたが、17年元旦に新聞掲載された京大の山際氏の、なにげない無償の時を共にすることで人間間の安心・信頼が生まれるという論稿は、私を納得させてくれた。先生は大学時代の師や級友に夢の中で叱咤激励され、勸学院での講義の準備に集中することで、危機を乗り越えたという。

その後、生と死は一体でメダルの裏表のようにつながっているという死生観に達したと言っておられたが、それでも私が津波で妻子をなくした人が1周忌の後、息子に会いに行ってくるという遺書を遺して自死したという話をすると、「その気持ちよう分かるわ!」と叫ばれた。

最後に、先生には一度ならやまの土を踏んでもらいたかった。先生は「命は大海の一滴で肉体が滅べば命は大海に戻り、そこからあらたな命が生まれる」と話された。しかし私は「生き物の遺体は積み重なって土になっていく。命は土にかえる。それが新たな命を生む」という山形の農民が話した考えに共鳴している。

歴史同好会活動便り
「行基の足跡と人間像に迫る」

歴史同好会 中井 弘

5月24日、22名の参加を得て、第3回目の歴史同好会を西部公民館にて実施した。午前は二人の世話人講師による講義、午後は、生駒山東山麓にある行基ゆかりの寺院を探訪した。

行基は天智7年(668)河内国(堺市)で生まれ、両親は百済系渡来人。薬師寺で道昭に師事し法相教学を学んだ。僧尼令に違反しながらも仏教の民間布教に努め、僧俗混合の宗教集団を形成して貧民救済や治水、架橋などの社会事業に活動させた。その拠点としていた喜光寺(もと菅原寺)で749年82歳の生涯を閉じた。

高城講師は、行基の弟子による年代記を基に編集された行基事績『行基年表』から、関連事績やその背景を深堀した。行基は弾圧されながらも「衆生の救済こそ仏教の神髄」という信念のもとに、相次ぐ遷都で疲弊した衆生を救済するため、食事や宿泊場所としての布施屋を造り、知識とも呼ばれる行基集団を結成して、近畿各地で寺院(49院)や灌漑地、港湾開発、架橋、道路建設など89か所の施設を建設した。



貧民救済のために行った行基事業の活動資金は、勸進やお布施の他、三世一身法の施行もあって、行基の事業が特に渡来系氏族(秦氏・土師氏)など豪族にとって有益なものと解り、その参画支援が土木建設の技術面で大きく奏功したとする。

当時、天変地異、疫病、相次ぐ遷都や造営により民は疲弊していた。聖武天皇は行基を大僧正に任命し、大仏建立の財政、労働力面での協力を要請した。民衆からは「行基菩薩」と仰がれたが、開眼供養を見ることなく3年前に他界した。

八木講師は、行基の社会事業と律令国家体制について704~749年を4期に分けて概説した。

第1期は生誕地・和泉地方での活動期。この時期、行基集団は未形成。第2期は平城遷都から始まる本格的な開発事業の準備期間。菅原寺などが開設される。第3期三世一身法の成立を受け、和泉地方の開墾事業が進む。師・道昭が建てた山崎橋という最重要架橋を再建。第4期畿内全域での大規模な開拓事業の展開。



午後は近鉄壱分駅から「生馬山竹林寺」へ。本尊は文殊菩薩騎獅像(重文)。行基の開基と伝わり、行基49院のひとつ。敷地内に墓所がある。行基没後半世紀の鎌倉時代(1235)行基の墓を掘ったところ、墓誌とともに行基の遺骨が入った舍利瓶が出てきた。その中から「大僧正舍利瓶記」が発見された。その後、行基菩薩の信仰を背景に堂塔が整備され、良遍、円照、忍性など南都高僧の止宿寺となっていたが、明応7年(1498)の兵火で焼失した。後再建されたが衰退、現在は無住寺となっている。境内には忍性の墓所もある。行基は竹林寺の前身である「生駒仙房」を活動拠点としていた。



次に「往生院」を訪れた。本尊は行基菩薩坐像。行基は喜光寺で入滅した後、遺命により遺体はここまで輿(こし)に乗せて移され、火葬に付された。以来この地は輿山(こしやま)といわれ村の火葬場となった。境内には県最古の宝篋印塔(いずれも重文)が立っている。最後に西大寺に程近い「喜光寺」を訪れた。本尊は阿弥陀如来像(重文:平安時代)。奈良の都のほぼ中央にあたり、養老5年(721)行基菩薩によって創建された。古くは「菅原寺」と呼ばれていたが、天平20年(748)聖武天皇が参詣された際、ご本尊より光明が放たれ、天皇より「喜光寺」という寺号を賜った。

20数年かけて廃寺寸前の喜光寺を再建された山田法胤住職の講演を拝聴、解散した。

サクラを枯死させる特定外来生物
「クビアカツヤカミキリ」から
ならやまの桜・梅を護ろう！！

中井 弘

「クビアカツヤカミキリ（略称クビアカ）」の日本国内への侵入が初めて確認されたのは、2012年の埼玉県でした。奈良県では2019年に広陵町で成虫が発見され、現時点ではすでに全国13都府県が被害を受けています。2018年に特定外来生物に指定され、日本の樹木害虫の主要種です。



被害樹種：国内で確認されているのはバラ科サクラ亜科

(サクラ・モモ・ウメ・スモモ・アンズ等)に属する樹木で、クビアカが侵入した桜は、数年以内に樹勢が衰え、枯死してしまいます。

日本では、今のところ桜の被害が最も多く、桜の害虫として認知されていますが、和歌山県・徳島県では梅・桃・スモモの被害が多く、廃園した果樹園もでています。

クビアカの生態：羽化した成虫は夏場（6～7月）に、桜や桃、梅などの樹皮の亀裂に産卵します。樹木に直接被害を与えるのは木の中で成長する幼虫です。



(写真3) 枯死したモモの中に潜んでいた幼虫

脅威の繁殖力：普通のカミキリムシが産む卵の数は百個以下ですが、クビアカは一匹で数百個、中には千個を超えるものもあります。産卵後2週間程度で孵化します。孵化した幼虫はすぐに樹皮下に潜りこみ、幼虫と蛹の合わせた期間は2年で、6月～8月に成虫に育ちます。成虫になるとすぐ交尾して数百個の卵を産卵しますので幼虫の段階で発見し、駆除することが重要です。

被害の目印「フラス」：幼虫は、樹皮の下に潜って、内樹皮を食害します。春から夏にかけ

て盛んにフラス（糞と食べた木くずの混合物）を潜入孔から外部に押し出します



(写真13)クビアカツヤカミキリのフラス

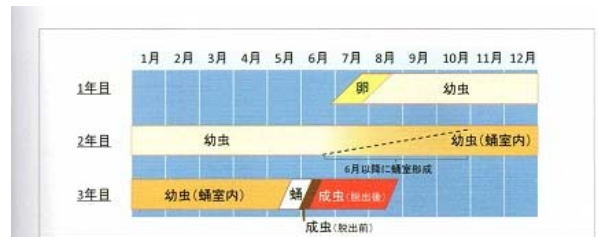
ので、樹木の根元に散乱しこれが被害の目印になります。（他の昆虫もフラスを出しますが、フラスの形状が異なるので判別できます）

クビアカの防除法～早期発見・早期駆除～

クビアカの防除は早期発見・早期駆除に尽きます。産卵能力が高く、生存に好適な木が多くあると、その周辺の木々が次々に枯れ、その対策はとても難しくなります。そのため早期に発見して防除対策が重要です。初期の段階では幼虫の排糞孔は、根元から目の高さにあることがほとんどであり、発見は容易とされます。

防除対策：森林総研のマニュアルに物理的防除と化学的防除が提案されていますが、フラスが出ていても初期段階の被害が軽微な樹木であれば、「薬剤による個別駆除・樹幹注入」が簡便な駆除方法と推奨しています。

薬剤の樹幹注入：フラスが出ている穴にノズルで薬剤を注入する処置です。更に樹木の地面に近い地際部にドリルで穴を開け薬剤を注入器で注入します。注入した薬剤は維管束や排糞孔を通して木の内部に広がり、幼虫が薬剤を含んだ木質部を食べることで殺虫・防除効果が発揮されます。



(図1) 栃木県のモモ園における生活環(2年1化)

「ならやま」での対策：まずは早期発見が第一であり、各グループが分担して桜・梅・桃などの対象樹木を点検することになりました。植樹後間もない小径木は加害される可能性は低いので対象外としています。

参考文献：森林総研マニュアル等

組織体制変更のお知らせ

会長 千載 輝重

総会での役員改選後、5月31日および6月28日開催の幹事会において、組織体制の変更について承認されました。新組織体制は以下のとおりです。

これまで同様、会員の皆さん一人ひとりが主役であるという基本に立ち、多くの方が積極的に参画していただけるよう努めますので、新しい体制での会の運営にご協力をお願い申し上げます。

奈良・人と自然の会 組織体制表					2022.6.28
<役員>					
幹事	青木幸、有元、太田、尾崎、小島、千載、田中善、辻本、戸田、富井、富江、				
	豊田、福田、藤原、三瀬、山本隆・・・16名				
監査役	岡田	本会の会計処理内容について監査する			
<役職>					
会長	千載				
副会長	太田、小島、辻本、富井				
会計	尾崎、有元				
顧問	鈴木				
参与					
<組織>					
部門	部長	グループ	GL		チーフ
総務部	辻本				
		事務	辻本	庶務 渉外 イベント 助成金事業	辻本、青木幸 戸田 辻本、富井 辻本、小島
		会計	尾崎	会計・出納	有元、田矢
		広報	田中善	会報誌 HP	青木幸 尾崎
ならやま事業部	富井				
		管理 里山	山本隆	副リーダー	富江、青木幸 平山、清原、福田 富江、藤原、佐竹、
		エコ	三瀬	副リーダー	池山玲、青木芳、 吉村
		景観 パトロール	太田 小島	副リーダー 副リーダー	内河、田中善、宝田 山上、飯島、塩本
		果樹	有元	副リーダー	尾崎、豊田
自然文化部門					
		月例	戸田	副リーダー	青木幸
		自然教室	富江	副リーダー	山本美
		自然工作		副リーダー	大澤、村上、桜木



Gallery ならやま



絵画 ナメゴ谷 戸田 博子



陶芸 アロマキャンドルポット
坂東 由紀子



陶芸 小さな小さな花瓶 桜木 晴代



竹細工 竹籠 辻 敏美

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内

公開イベント

「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②」

夏の公開イベント第二弾「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②」を開催します。今年はウイズコロナが定着する中で、たくさんの子供たちを迎えての開催となります。まだ、以前のように、飯盒炊爨を挟んでのイベントではなく、午前中だけの開催となりますが、感染症対策、熱中症対策を十分に行いながら、精一杯楽しいものになりたいと思います。皆さんのご協力をお願いします。

<開催内容>

1. 日時：8月27日(土)
9:00~12:15(受付開始8:30)
前日19時前のNHK天気予報で奈良県北部の降水確率が50%以上の場合は9月3日(土)に延期。
2. 場所：ならやまベースキャンプ
3. 内容：水生生物観察、竹林・里山遊びなど。
4. 参加費用：無料
5. 募集人数：小学生のご家族合わせて40名
6. 申込方法：8月12日よりメールにて受付。
メール宛先 event@naranature.com
担当：山本(隆)、藤原、田中



仲間入りしました

柴田 秀男

古川さんの斜め向かいに住んでいます。古川さんより、「奈良・人と自然の会」について説明いただき、特に果樹グループの活動に興味を持ちました。

私は和歌山で少し柑橘類を育てていますので、会の方々より色々教えていただけるかと思入会しました。

会員の方々には色々な経験や知識を持たれていて、毎回参加する度に新しい発見や気づきがあります。

「奈良・人と自然の会」で色々なことに出合えることを楽しみにしています。

どうぞよろしくお願いいたします。

ならやまから姿を消した昆虫たち

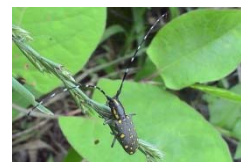
菊川 年明

ならやまから姿を消して久しい昆虫がかなりいますが、その中の3種をご紹介します。

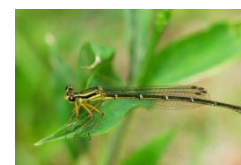
まずチョウのアサギマダラです。10年くらい前までは毎年10月初旬の数日間フジバカマの花にやって来て、私たちの目を楽しませてくれていました。



以前、ならやまBCの前に大きなクワの木があって初夏にはキボシカミキリが居着いていました。



春の西池はイトトンボのオンパレードでした。その中の1種、モノサシトンボは尻尾(腹部)に物差しの目盛りのような模様が着いているのでモノサシトンボという名前が付いています。



2022年7月度 幹事会報告

日時：6月28日(火) 14:00~16:40

- I. 会計、総務部より
 - ・会員動向：153名(1名入会1名退会)
 - ・会計報告：収支報告あり
 - II. 活動・行事関係
 - ・9/17 イベントは「わくわくドキドキお山を歩こう」とし公募する。
 - *ならやまプロジェクト関係
 - ・水田の雑草予防に乾燥させたヨシを敷く試み
 - ・7/7 希少植物の説明&見学会を予定
 - ・7/初~8/末まで夏時間とする 8:30~12:45
 - ・6/30 春の感謝祭 カレー2種・サラダ・ご飯
 - *イベント関係
 - ・7/16 参加者50名予定、昆虫観察、竹林遊び、里山散策、里山遊び 図録の紹介
 - IV. 企画、助成金事業案件
 - ・各種助成金事業：順調に進捗
 - V. 喫緊、提案事項
 - ・エンジョイファーム構想は対象地域の現状を再確認の結果、当面は見送ることとする。
 - ・土・日の活動について
 - 月1回だけでも木曜を土曜に切り替えるなどの検討を行う。
 - ・クビアカツヤカミキリの説明あり
 - 桜の木を中心に各G手分けして8月末までにフラスなど侵害の有無の確認を行う。
 - ・蚊取り線香の使用について
 - 携帯型蚊取り線香使用上の注意厳守再確認
 - VI. 広報関係
 - ・8月号編集内容確認
 - ・印刷物配布を削減できるかどうかの調査検討
 - VII. 報告、連絡事項、その他
 - ・ならやま参加者名簿への体温記入をやめ、車両番号を記入していただくことにする。
 - ・熱中症注意 BCに温度湿度計を置く
- 次回 7/26(火) 14:00~奈良市中部公民館



＜私の楽園＞

幼なじみに勧めてもらって、実習に来させていただいたらやま！大勢の方々が嬉々として活動されている、手入れの行き届いた里山。私には、ならやまが正に楽園に見えました。自然大学の卒業を待ちに待って入れていただきました。

一から教えていただいた剪定、施肥、植え替え。果実の収穫、販売、ジャム作り。皆で工夫して作ったジャムを買っていただき、美味しかったって言っていただく。それがまた、ならやまのほのぼのの基金に貢献させていただく！本当に夢のような日々です！

人生の夕暮れ時に、ご褒美のように頂いた満ち足りた時間、俳句、川柳とのお付き合い。

先輩たちが大切に植え育ててくださった木に、新たに苗木を植え続けて、実り豊かな楽園を守っていきたいと考えています。

9月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動(木)1日 協働活動日
- * わくわくドキドキお山で遊ぼう 9/17(土) 予備日 9/24(土)
- * 自然観察会 9/12(月) 歌姫街道

会員動向(敬称略)

<入会者> 金田 香代子 7月7日
 <退会者> 武内 豊 7月5日

発行：奈良・人と自然の会
 URL : <http://www.naranature.com>
 編集代表 Mail: editor@naranature.com
 編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎・千載・田中(善)・戸田・豊田・増田

表紙写真：念入りに味付けし、じっくり煮込んだカレー作りをしています。